



三郷市長 木津 雅晟氏

市長のメッセージ

三郷市は、時代のニーズを的確にとらえ、さらなる成長を続けるために、「持続可能な拠点の形成（まちづくりは道づくり）」「多様性のある地域の確立（地域コミュニティの充実）」「質の高い教育と切れ目ない子育て支援の強化（こどもたちの成長を見守る・夢を育む）」をまちづくりの重点テーマとし、「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」の更なる飛躍を目指し、今後も引き続き、積極的にまちづくりを進めてまいります。

はじめに

三郷市は、埼玉県東南端に位置する。東は千葉県松戸市と流山市、南は東京都葛飾区と、2つの県境に接した市だ。つくばエクスプレス（以下、TX）が市の中央部を東西に、JR武蔵野線が市の北部を通る他、広域交通施設の高速道路ICが5カ所あり、県内でも有数の交通利便性を誇る。

TXは本年8月で開業20周年を迎える。TX三郷中央駅の周りには、都心への通勤・通学の利便性を背景に、多くの世帯が移り住んできた。市はこれまでも、1970年代から1990年代にかけての大規模団地開発（みさと団地、三郷早稲田団地、さつき平団地）、2000年代の大型商業施設を中心としたまちづくり（ピアラシティ、新三郷ららシティ）といった宅地開発を経て、時代と共に活気のあるまちへと発展してきた。

市内のカフェでは、賑やかな会話を横目に、小さな本棚に目が留まる。「ふれあい文庫」の取り組みだ。貸出の手続きはなく、基本的に自由に読み、借りるこ

とが出来る。市民から寄贈された本が活用され、市内30カ所まで拡大している。市は2013年に「日本一の読書のまち」を宣言し、「日本一本とふれあえるまち」を目指す。応援団長は作家の柳田邦男氏だ。市内のどこでも本と出合える様々な取り組みには、人と人との交流を生む工夫があり、市民の文化を豊かに育んでいる。

☀ まちづくりは道づくり

三郷市では、「道づくり」を市政の重点的なテーマとして位置づけている。東京外環自動車道、常磐自動車道、首都高速6号三郷線が市内で合流し、県内の交通の結節点としての役割も大きい。

本年3月、市は常磐自動車道三郷料金所スマートICのフルインター化を実現させた。本線料金所に併設するスマートICでは全国初となる。

また一昨年11月には、このICに近接する場所に、三郷流山橋有料道路が開通した（表紙写真）。三郷料金所スマートICフルインター化と三郷流山橋有料道路開通の相乗効果により、都心へのアクセス向上と市内の渋滞緩和、周辺の地域産業の活性化の効果が期待されている。

三郷流山橋の建設が持ち上がったのは、TX沿線の宅地開発によって、周辺道路の交通需要が急速に高まることが予想された30年前だ。市内北部に三郷市と茨城県つくば市の国道を結ぶ「都市軸道路」の整備が検討され、そのルート上にある河川や高速道路、鉄道をも通貫する道路の一大プロジェクトが開始し、事業はその一端となる。実現まで市は長い年月に



三郷料金所スマートICのフルインター化（本年3月）

三郷市概要

人口(2025年6月1日現在)	141,935人
世帯数(同上)	68,991世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	47.3歳
面積	30.22km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	481所
製造品出荷額等(同上)	1,393.0億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	808店
商品販売額(同上)	3,652.6億円
公共下水道普及率	88.2%
舗装率	89.8%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR武蔵野線 三郷駅、新三郷駅
つくばエクスプレス 三郷中央駅
- 首都高速6号三郷線・常磐自動車道 三郷ICから市役所まで約1km
東京外環自動車道 三郷中央ICから市役所まで約1km

わたり、流山市とともに様々な機関に対し建設促進の要望活動（働きかけ）を行ってきた。現在は埼玉県によりその先のJR武蔵野線下を通るアンダーパス、第二大場川を渡河する区間の道路・街路整備が進められている。国などにおいて整備中の東埼玉道路までの延伸を展望し、埼玉県東部の一体的な発展を担う軸となっていくことが期待されている。

市民の安心・安全に向けた取り組み

市は、中川と江戸川の2つの一級河川に囲まれている。交通の結節点を担い、多くの往来を支える市にとって、市民の安心と安全は外せない条件だ。

現在、市民の防災拠点として、「(仮称) 南部地域拠点防災コミュニティ施設」の設置を計画している。防災資機材の備蓄や、避難が可能なスペースを備え、災害時は市南部の防災拠点としての役割を担うことも想定している。また平時は、市民の防災と減災の意識の醸成を推進する防災体験学習ができるコミュニティ施設として活用される。さらなる市民の安心・安全に向けた取り組みとして、来年度のオープンを目指している。

交通環境の整備にもぬかりはない。人や車の往来が増えた三郷中央駅周辺の賑わいと交流の創出に併せて、駅前広場の交通施設（横断歩道やタクシープールなど）を再配置することで、車両と歩行者の動線を見直し、滞在快適性と安全性向上の両立を図る。「まちなかウォークブル推進事業」として、賑わいと市民の安心・安全への対策が一体として進められている。

市の未来に結実するオリーブの木

三郷料金所スマートICのフルインター化が実現した本年3月、市はスマートICの上下線の分岐点に、2本のオリーブの木を記念として植樹した。オリーブの木はギリシャ共和国を代表する樹木である。

市はギリシャ共和国と交流が深い。2014年に「みさとシティハーフマラソン」で駐日ギリシャ大使館から入賞者にオリーブ冠を贈呈したことがきっかけだ。東京2020オリンピック開催に際して、国際交流に向けたホストタウンとしても2016年に登録された。オリンピック以降も、スポーツをはじめ、国際的な文化交流が今も続いている。

オリーブの木は樹齢1000年といわれている。1本では実を結びにくく、2本を植えることで結実する。このオリーブの木が、やがて多くの実を結ぶように、市が手掛けた道づくりが、多くの交流を育んでいく。木の前を多くの自動車が行き交うだろう。他市他県に繋がるこの道が、市の未来でしっかりと実を結んでいくことを、木は静かに見ている。（齋藤康生）



三郷料金所スマートICの分岐点に植樹されたオリーブの木